




インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第56回定時総会の報告	60
○農業農村工学会代議員選挙結果	61
○2023年度名誉会員の推挙	61
○農業農村工学サマーセミナー2023参加者募集！（第2報）8月31日～9月2日開催	61
○今年もやります！農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2023”（再）応募締切7月31日	62
○新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」の発刊	62
○2024年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切10月31日	63
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	64
○技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正	64
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	65
○技術提案書の評価基準で技術士CPDが評価されるようになりました	65
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	65
○改訂6版 農業農村工学標準用語事典PDF版およびWeb版の閲覧申込み案内	65
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております!	66
○2024年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切9月30日	67
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局	67
○第78回中国四国支部講演会ならびに第47回地方講習会の開催（第1報）  講演申込締切8月18日	69
○第53回畑地かんがい研究集会の開催（第1報）  10月19, 20日開催	70
○第39回ファジィシステムシンポジウム/FSS2023の開催 9月5～7日開催	71
○令和5年度農業農村整備サマーセミナー（第59回）の開催 8月9日開催	71
農業農村工学会論文集 内容紹介	72
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧 	73
学会記事	74

第91巻第8号予定

展望：次の基本法の時代をどう迎えるか：奥田 透

報文：開水路における付着カワヒバリガイの除去作業例と課題：竹村武士ほか
 兵庫県加古土地改良区からみる参加型灌漑管理の成功要因：角田宇子
 大柿ダム堤頂部の地震時挙動とクラック発生機構の考察：十文字康能ほか
 震災による崩壊から復旧した藤沼ダムの運用：鈴木秀一郎ほか
 小水力発電バイパス水路における取水スクリーンの特性：有田淳一ほか
 琉球王朝時代の土壌流出防止対策：吉永安俊ほか

技術レポート

北海道支部：お茶の水排水機場ポンプ設備の更新計画：寺田大輔ほか
 東北支部：水管橋における管更生工法の施工事例：鈴木勇一ほか
 関東支部：小坂田池における地盤改良工法と建設汚泥処理の検討：山崎実結
 京都支部：小口径水管橋の保全対策：鈴木武尊ほか
 京都支部：レーザースキャニングによる既設頭首工堰柱の表面損傷検出：小日向研吾ほか
 中国四国支部：圃場整備におけるカバープランツと田んぼダムの導入：喜田 晋ほか
 九州沖縄支部：ネットワーク型RTK法による単点観測法を用いた際の障害確認：井手照公

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこととございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2023年8月 29日～9月1日	大会運営委員会	2023年度(第72回)農業農村 工学会大会講演会 Ⓟ	—	松山市	90巻12号, 91 巻1, 3, 5号
2023年8月 31日～9月2日	農業農村工学サマーセ ミナー 2023 実行委員 会	農業農村工学サマーセミナー 2023	—	松山市 Web 形態	91巻6, 7号
2023年10月 12, 13日	中国四国支部	第78回講演会・第47回地方講 習会 Ⓟ	—	広島市	91巻7号
2023年10月 19, 20日	畑地整備研究部会	第53回畑地かんがい研究集会 Ⓟ	水田の畑地化・汎用化と装置 としての水田機能の適応	青森市	91巻7号
2023年10月 26, 27日	九州沖縄支部	令和5年度(第104回)支部大会 Ⓟ	—	那覇市	91巻4号
2023年11月 28, 29日	京都支部	第80回研究発表会 Ⓟ	—	津市	91巻4, 6号

公益社団法人農業農村工学会第56回定時総会の報告

- 日時 2023年5月30日(火) 14:00～14:50
- 場所 農業土木会館2階A会議室
- 代議員現在数及び定足数 現在数114名 定足数58名
- 出席代議員数 90名(内、出席3名、書面により議決権を行使した代議員59名、委任状により議決権を代理行使した代議員28名)

5. 定足数の確認等

総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。

6. 出席役員

会長 平松和昭, 副会長 奥田 透, 専務理事 小泉 健, 監事 長坂貞郎

7. 議長の選出

事務局提案の塩野隆弘代議員を全員一致で議長に選出した。

8. 議事録署名人の選出

議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、足立泰久、笹田勝寛の両代議員を全員一致で選出した。

9. 議 事

決議事項

(1) 議案-1 2022年度事業報告

専務理事から同議案について説明があり、事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

(2) 議案-2 2022年度決算

専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会計の説明及び監事監査の報告があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

(3) 議案-3 名誉会員の推挙

専務理事から同議案について、8名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

報告事項

(1) 報告事項-1 2023年度事業計画

専務理事から2023年度事業計画について説明があった。

(2) 報告事項-2 2023年度予算

専務理事から2023年度予算について説明があった。

議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14時50分議事の終了を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに署名捺印する。

2023年5月30日

公益社団法人農業農村工学会第56回定時総会
(議事録作成者)

議 長 塩野 隆弘

署名人 足立 泰久

署名人 笹田 勝寛

農業農村工学会代議員選挙結果

公益社団法人農業農村工学会 会員各位
 公益社団法人農業農村工学会
 会長 平松 和昭
 2023年5月29日に実施した代議員選挙の結果、公開資料の名簿のとおり代議員として選出されたので、代議員選挙規程第11条第3項の規定によりお知らせします。

記

公益社団法人農業農村工学会 代議員名簿
 (任期：2023年5月30日～2025年5月代議員選挙終了の日)

○所属支部：北海道支部

川端伸一郎, 山本 忠男, 佐々木 悟, 細井 俊宏,
 山本 恵太, 大西 峰隆, 磯嶋 光世, 蒲原 直之,
 藤田 二, 秀島 好昭, 関藤 博臣

○所属支部：東北支部

丸居 篤, 樽屋 啓之, 飯田 俊彰, 重岡 徹,
 北辻 政文, 石川 雅也, 神宮字 寛, 松尾 浩司,
 松田 英樹, 吉澤 寿規, 小笠原康雄, 今泉 元伸,
 鈴木 満, 金須 豊洋, 大内 孝喜, 大山 泰,
 小野寺平崇, 安達 邦明, 門脇 健, 宍戸 潤一

○所属支部：関東支部

青山 健治, 石川 英一, 富田 晋司, 友正 達美,
 進藤 惣治, 竹中 一行, 井坂 誠博, 藤沼 良彰,
 篠原 孝幸, 吉田有紀彦, 今井 忠延, 河野 章,
 篠原 源, 浅川 一輝, 平林 孝保, 岩崎 康正,

林 活歩, 松本 雅夫, 宮本 直彦, 渡辺 巧,
 松田 祐吾, 小島 信彦, 前田 滋哉, 西脇 淳子,
 鈴木 純, 松岡 延浩, 中村 貴彦, 大澤 和敏,
 笹田 勝寛, 石井 敦, 乃田 啓吾

○所属支部：京都支部

坂田 寧代, 平松 研, 岩間 憲治, 中村 公人,
 櫻井 伸治, 井上 一哉, 取出 伸夫, 長野 峻介,
 木村 匡臣, 坂田 剛彦, 杉山 一弘, 植田 康成,
 荒川 浩, 松本 紘明, 池田 俊文, 本田 照男,
 加藤 祐一, 近藤 修平, 湯浅 豊司, 鶴沢 和弘,
 青山 義久, 杉田 和繁, 三輪 顕, 長谷川憲生,
 箕澤 正夫, 山本 政彦, 川端 正一, 高居 和弘,
 田中 進, 大亦 昌史, 田中 誠二, 林 慎治

○所属支部：中国四国支部

都築 慶剛, 猪迫 耕二, 吉岡 有美, 宗村 広昭,
 角道 弘文, 小林 範之, 森田 智彦, 森山 正人,
 天野 哲也, 榎原 敏幸, 佃 照久, 太田 隆久,
 松平 和也, 宮田 正孝, 大利 尚

○所属支部：九州沖縄支部

青木龍太郎, 田尻 淳, 島 武男, 山崎 一徳,
 江口 洋久, 野口 和弘, 清藤 浩文, 黒垣 圭則,
 戸高 久吉, 玉泉 利幸, 島袋 進, 原田 昌佳,
 原口 智和, 中園 健文, 平 瑞樹, 仲村渠 将,
 本口 晴年, 木原 泰信, 平山 周作, 鈴木 稔人

2023年度名誉会員の推挙

2023年5月30日に開催された第56回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。
 これにより名誉会員の現在数は、271名となりました。

新規名誉会員（敬称略）

遠藤 隆清, 有岡 武彦, 齋藤 晴美, 牧野 雅美,
 河野 俊正, 美濃眞一郎, 荒井 博之, 森井 俊廣

農業農村工学サマーセミナー 2023 参加者募集！（第2報）

農業農村工学サマーセミナーは、農業農村工学を学ぶ学生や若手社会人・研究者の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度も農業農村工学サマーセミナー2023の開催を企画しています。内容や参加費が決まり次第、サマーセミナーのホームページや本誌等でお伝えします。他大学の学生や他機関の社会人・研究者と農業農村工学に関する議論を試みたい方、交流したい方、まだ研究室に所属していないけれども農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どなたでも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

1. 主催 農業農村工学サマーセミナー2023実行委員会
2. 開催方式 現地, オンラインのハイブリッド

3. 日時 現地 : 2023年8月31日(木)～9月2日(土)
 オンライン : 2023年8月31日(木)～9月1日(金)
 開始, 終了時刻は現時点で未定
 (決まり次第, サマーセミナーホームページに記載します)

4. 対象 学部学生, 大学院生, 若手社会人, 若手研究者
5. 参加費 未定
6. 企画内容 未定

【過去の活動内容例】

2022年度(ハイブリッド開催): グループディスカッション2題(「専門分野以外のNN分野を知ろう」, 「サマーセミナー

のロゴを作ろう」), 親睦会, 現地研修会(金沢市)など
2021年度(オンライン開催): グループディスカッション2
題(「災害・防災に対して農業農村工学ができること」, 「サマー
セミナーで動画を作るとしたら?」), レクリエーションなど

7. お問い合わせ

E-mail: n.n.summer.seminar@gmail.com
URL: [https://sites.google.com/view/
n-n-summer-seminar](https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar)



今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2023”(再)

農業農村工学会広報委員会では, 昨年に引き続き, 下記のと
おり, 農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2023年7月31日(月)17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2023年度のテーマ 「こんなにも! 農業農村」
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタグを付けて
アップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上,
最優秀賞1作品, 優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2023, こりゃ映像, 農業農村)
を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.
or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別,

所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—
Android入門
[http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.
html](http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html)

<参考>こりゃ映像2022 結果

最優秀賞: 水の守り人 新米(ルーキー) 参上~水利用のし
くみを知る~

野洲川土地改良区 鍋家可捺
内外エンジニアリング(株) 藤原千里
<https://youtu.be/vHusUcfeBs>

優秀賞: 牧草地の雑草駆除の開発—薬剤使用量8割減をめ
ざして—

東京農業大学生物産業学部 松村寛一郎
https://www.youtube.com/watch?v=oC_mVox6LqQ

優秀賞: 交流からみた農業農村~とやま帰農塾~

富山県農林水産部農村振興課 竹口 輝
<https://youtu.be/sDIBY1TLPgg>

新刊 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」の発刊

令和4年5月に制定された, 土地改良事業計画設計基準及び
運用・解説 計画「農地地すべり防止対策」(農林水産省農村
振興局編集)を2023年3月10日に発刊いたしました。

<制定の趣旨より抜粋>

…(中略)…、現行基準が制定された平成16年3月から
十数年が経過した。その間に蓄積された計画設計技術の知見,
新たに開発された調査手法, 地すべり防止区域及び地すべり
防止施設の管理を行う重要性の増大等による農地地すべりを
取り巻く社会情勢の変化等を反映させる必要が出てきた。

これらのことを踏まえ, 概成に関する項目を新たに設ける
こととともに, 所要の改定を行い, 一層の効率的かつ効果的
な事業実施に資するものである。

購入希望の方は, 下記要領にてお申し込みください。

1. 発行書籍

書籍名: 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 計画
「農地地すべり防止対策」基準, 基準の運用, 基準及び運用の
解説, 技術書

編集: 農林水産省農村振興局

価格: 4,180円(税込), 送料: 1冊200円(最大600円)

規格: A4判 561ページ

発行日: 2023年3月10日

2. 申込み方法

I. 個人, 法人の場合(賛助会員を除く)

① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に書籍名, 冊
数, 送付先, 担当者名, 連絡先をご記入ください。

振替口座番号: 00160-8-47993

加入者: 公益社団法人 農業農村工学会

② 現金書留: 書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先
を書いた注文書をご同封ください。

③ 代金引換: 書籍名, 冊数, 送付先, 担当者名, 連絡先

を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mail
またはFAXでお送りください。別途、送料の実費と代
引手数料が必要です。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合
書籍名、冊数、送付先、担当者名、連絡先を書いた注文書
をE-mailまたはFAXでお送りください。

3. 申込み先

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会事務局 図書係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

2024年度農業農村工学会賞候補の推薦

2024年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、 締切は、2023年10月末日です。推薦書様式および授賞規程
募集要項に則って、推薦書によりご推薦ください。 は学会ホームページをご参照ください。

2024年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画、設計、施工、管理等の技術業績	農業農村工学に関する学術または技術についての優秀な業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2018年10月から2023年9月までに発表されたものとする。ただし、その5カ年以内に発表されたものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020年10月から2023年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表されたものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2020年10月から2023年9月までに発表されたものとする。ただし、その3カ年以内に発表されたものと同一の課題については、それ以前に発表されたものも、一連の業績とすることができる。	2022年10月から2023年9月までに発表されたものとする。	2022年10月から2023年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2023年9月までに発表されたものとする。	2018年10月から2023年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文、報文等とする。主として現場調査資料、現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織、団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			正会員および名誉会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で、農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育、技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い、もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し、あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について、国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット、ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて、農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2013年10月から2023年9月までに発表されたものとする。	2018年10月から2023年9月までにを行った活動とする。	2021年10月から2023年9月までにを行った活動とする。	2018年10月から2023年9月までにを行った活動とする。	2018年10月から2023年9月までにを行ったものとする。	2018年10月から2023年9月までにを行ったものとする。	2021年10月から2023年9月までに制作したのものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあつては全面改訂したもののみを対象とする。							2023年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体				個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦または技術者継続教育機構CPD運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。		正会員および名誉会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。	正会員および名誉会員の自薦、他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績(コピー可)を1部提出する(いずれも返却しない)。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2024年度(第73回) 農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2023年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2023年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一人）
（※特に記載がなければ(1)として扱います。）

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①, ②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①, ②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。

技術者継続教育機構業務運営要領等の一部改正

農業農村工学会技術者継続教育機構では、CPD記録の不正な申請行為等を抑止するため業務運営要領等の一部改正し、2023年4月1日から施行いたしました。

1. 改正の理由

技術者継続教育機構では、技術者は倫理観を備えているとの前提でルールを構築していたため、現行規程の下では登録の抹消以外に不正行為に対応する内容を定めていませんでした。しかしながら、CPD取得証明の持つ社会的意義の重大化に伴い、CPD制度の運営機関の責任として不正行為を抑止する仕組みが必要であることから、「技術者継続教育機構業務運営要領」および「技術者継続教育機構業務運営細則」に不正行為の定義を明示しそれらを行った登録者に課すペナルティを定めることにより、不正行為の抑止を図るとともに発生した不正行為に迅速に対処することとしました。

速に対処することとしました。

2. 改正の範囲

- (1) 技術者継続教育機構業務運営要領の一部改正
(2) 技術者継続教育機構業務運営細則の一部改正

3. 施行日 2023年4月1日

4. ガイドラインの制定

新たに定められた制限事項はありません。不正行為の範囲を明確にするため「登録者の不正行為に関する判定とペナルティのガイドライン」を定めました。また、ガイドブックなどにペナルティの対象となる事案を例示することで、登録者の理解を深めます。

詳細は技術者継続教育機構ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>) をご参照ください。

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもある CPD 個人登録者が在宅のまま CPD 単位が取得できることを目的に「CPD 通信教育」を実施しています。

2021 年 9 月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいませよう願いたします。

技術提案書の評価基準で技術士 CPD が評価されるようになりました

農林水産省では、建設コンサルタント等の選定・特定事務手続き上の細部運用を改正（令和 5 年 4 月 3 日付）し、予定管理技術者の業務執行技術力の評価項目で、農業農村工学会技術者継続教育機構において取得した CPD により「技術士（CPD 認定）」に認定されている場合に、評価点 1 点が加算されるこ

ととなりました。

「技術士（CPD 認定）」の認定要件については、日本技術士会ホームページ(https://www.engineer.or.jp/c_topics/008/008035.html)をご確認ください。

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 7 号掲載の問題は 8 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7～9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方には、学会ホームページ上 (<http://www.jsidre.or.jp/nnj/202101/yougojiten-web.html>) で閲覧サービスを行っています。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願い申し上げます。

(1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。

(2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6 版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名、会員番号および購入年月を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail 宛にお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

(3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。

(4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化に

ともない改訂6版から削除した用語の中から現在におい

ても参考になる用語を取録したものです。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字程度、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第91、92巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判1,500字程度)
第91巻第8号 ——	公募なし
9号 農地の利用について考える（仮）	終了
10号 技術者のスキルアップへの取組み（仮）	終了
11号 農業水利施設の管理、保全、更新に係る技術的課題と課題解決への取組み（仮）	終了
12号 ——	公募なし
第92巻第1号 ——	公募なし
2号 防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決方策（仮）	8月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

第92巻第2号「防災重点農業用ため池の整備における現状と課題の解決方策」（仮）

全国には、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法（令和2年10月施行）」（以下、「ため池工事特措法」という）に基づき都道府県知事が指定した防災重点農業用ため池が、約5万4千カ所存在（令和3年7月末時点）しており、防災工事等を令和12年度までに完了することを目指し、劣化状況の調査や防災工事が進められています。また、防災工事等の推進に当たっては、ため池工事特措法で定める「防災重点農業用ため池に係る防災工事等基本指針」において、農業用ため池が有する生物の多様性の確保をはじめとする自然環境の保全等の多面的な機能にも配慮することが重要と定められており、環境との調和に配慮した事業が求められています。

したがって、農業農村工学分野においても、限られた期間の中で膨大なため池の整備について、優先度の高い農業用ため池の選定、堤体や洪水吐等の劣化状況調査等、事前の環境調査、環境配慮対策をどう考えていくのが課題といえます。

ため池特措法の施行から2年以上が経過した現状において、多数の農業用ため池の調査および防災工事を短期間で実施することが求められていること、営農者の減少により実質的に取水源として使用されていないため池の取扱い、また、利用実態のないまま放置されている小規模ため池であっても、防災上の視点にとどまらず、希少種の生息状況の調査や生物多様性保全に着目した整備が必要等の多くの課題が指摘されています。

そこで、本小特集では、地方公共団体が実施する多数の防災重点農業用ため池を対象とした防災工事等の計画手法の知見として、①多数のため池を対象とした、ため池の優位付けや対策工法の新技術の事例、②農業用水としての利用実態がないため池の廃止工事や廃止工事を行わず残置した際の関係者間の調整事例、③ため池の防災・廃止工事を計画する上で、事業計画段階での環境調査と環境配慮方策の考え方、その工事中と工事完了後の調査事例等、幅広く報文を募集します。

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿報文およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/journal/>）に掲載の「農業農

村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員会あてに、ご投稿ください。

ご投稿に当たっては、投稿票・内容紹介・本文（テンプレ

ト)の各ファイル(Word)を上記の学会ホームページからダウンロードし、原稿の作成にご使用ください。

2024年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2024年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業(水利)施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠(造形美、用の美、融合の美)とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業(水利)施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など:現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号

学会誌第92巻(2024年第1~12号)

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず四つ切りを含むA4以上B4以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—光沢紙」を使用してください。四つ切りワイドも含まれます。なお、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mm、B4は257×364mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。データを送信する場合は一点につき20MB以下とし、これを超えるものはCDまたはDVDにて送ってください。形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

夏季 2023年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第92巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2024年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History(表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History(表紙写真由来)」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL:03-3436-3418 FAX:03-3435-8494

E-mail:henshu@jsidre.or.jp

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES)では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」

(略称:PAWE)を発行しています。なお、Paddy and Water Environment誌の略称は、これまでPWEとしておりましたが、2022年11月の国際集会以降はPAWEに統一されること

となりました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2021年のインパクトファクター(IF)は1.554と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動, 災害防止など)
- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また、世界11カ国からEditor(20名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

・Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

・Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

・Editors 13カ国から20名

・Editorial Advisors 30名

・Chief Managing Editor

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

・Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,
Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk
National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Sciences(JIRCAS),
Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,
ROC

TEL: +886-2-3366-3476

FAX: +886-2-2363-5854

E-mail: chfan@ntu.edu.tw

投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員でPAWE誌の購読者であること。

投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール: 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料: 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先: 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上、お申し込みください。

第 78 回中国四国支部講演会ならびに第 47 回地方講習会の開催（第 1 報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



中国・四国支部講演会および地方講習会を下記のとおりに対面での開催を予定しています。

1. 講演会・講習会

- (1) 開催日：講演会 2023 年 10 月 12 日（木）、講習会 13 日（金）
- (2) 会 場：広島 YMCA 国際文化センター
（国際文化ホールなど）
〒730-8523 広島県広島市中区八丁堀 7-11
TEL：082-227-6816

(3) 大会スケジュール（予定）

12 日（木）

- 10：00～10：25 開会式、支部賞表彰式
- 10：40～12：00 特別講演
「障害者の就労におけるインクルージョンとその動向」
久留米大学大学院心理学研究科
准教授 佐藤剛介
- 13：00～17：00 一般講演
- 18：00～20：00 情報交換会
（会場は広島市内を予定）

13 日（金）

- 9：00～12：00 地方講習会（テーマは調整中です）
- *詳細については、本誌掲載予定の第 2 報、中国四国支部ホームページで案内いたします。講演会での発表を希望される方はホームページに掲載される情報にご留意ください。

中国四国支部ホームページ
<http://jsidre.or.jp/tyugoku/>



2. 講演申し込み方法

(1) 講演原稿

講演原稿は、図、表、写真などを含めて 1 課題 3 ページ以内とします。

投稿者は、中国四国支部ホームページに掲載の「講演原稿の書き方」に従って原稿を作成し、原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記の講演会発表原稿提出窓口までお送りください。投稿票ファイルは中国四国支部ホームページからダウンロードしてください。その際、メールの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。受領確認はメールで返信を行います。なお、発表時間や発表方法などについての連絡をとる場合がありますので、講演者（○印）の方は必ず連絡先メールアドレスをお書きください。

(2) 講演資格

発表者のうち、少なくとも 1 名は学会員であることが

必要です。

(3) 講演方法

発表形態は口頭発表です。個人発表とし、講演補助としてプロジェクター、パソコン、パワーポイントを準備します。

(4) 講演時間

1 課題につき 15 分程度です。

(5) 講演要旨集

申込みがあったすべての原稿を講演要旨集に収録します。なお、印刷はモノクロとなります。

(6) 原稿の締切

令和 5 年 8 月 18 日（金）必着

(7) 講演会発表原稿提出窓口・問合せ先

高知大学農林海洋科学部 井原 賢
〒783-8502 高知県南国市物部乙 200
TEL：088-864-5163

E-mail：2022nn.chugoku.shikoku@gmail.com

※参加申込み窓口と講演原稿提出窓口を別にしていただきますので、ご注意ください。

3. 参加申し込み方法

(1) 参加申込書

参加申込みについては、中国四国支部ホームページに掲載の「参加申込書」をダウンロードし、所属機関ごとにまとめて、参加申込み窓口までメールでお送りください。その際、メールの件名は「【所属機関名】農業農村工学会支部講演会申込み」としてください。

(2) 申込み締切日

令和 5 年 8 月 25 日（金）

※講演者の原稿の締切りは 8 月 18 日（金）です。締切日が異なりますので、ご注意ください。

(3) 参加費

- ・講演会 参加費【一般：2,000 円, 学生：無料】
- ・情報交換会 参加費【6,000 円】
- ・地方講習会 参加費【一般：2,000 円, 学生：無料】

(4) 参加費の納入方法

原則として、参加申込みに併せて次の銀行口座に全額前納でお振込みをお願いします。

振込手数料については、振込人負担をお願いします。

また、振込み元がわかるように、所属・氏名等は必ずご記入ください。

なお、振込み後の参加費の返金については、原則応じられませんのでご注意ください。

【振込口座】

○銀行名：広島銀行 県庁支店

○店番号：008

○口座番号：(普通) 3081338

○名義人：農業農村工学会 中国四国支部

広島県実行委員会 事務局会計担当 大田英治

(5) 支部講演会、情報交換会、地方講習会の参加申込み窓口・問合せ先

広島県農林水産局農業基盤課 増原・門屋・大田

〒730-8511 広島県広島市中区基町 10-52

TEL：082-513-3649 FAX：082-223-3566

E-mail：nounouki@pref.hiroshima.lg.jp

※参加申込み窓口と講演原稿提出窓口を別にしていますので、ご注意ください。

(6) 昼食・宿泊案内

昼食・宿泊の斡旋・手配等はいりませんので、各自でのご対応をお願いいたします。

第53回畑地かんがい研究集会の開催 (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



畑地かんがい研究集会は、畑地整備研究部会および一般社団法人畑地農業振興会が共催し2年に1回開催しているものです。本年の畑地かんがい研究集会は、「水田の畑地化・汎用化と装置としての水田機能の適応」をメインテーマとして、研究集会ならびに現地研修会を下記のように開催することになりました。

畑地農業の発展に向け、多様な農業水利施設の建設や農地再編などさまざまな農業農村整備事業が実施されていきました。これらの事業に伴ってさまざまな現場技術が開発されるとともに、畑地農業のさらなる発展を目指した研究が行われています。本研究集会では、わが国の畑地農業の現状、諸問題、最新の研究事例および現場技術について紹介し、畑地農業の将来の展開について議論します。国、地方公共団体、企業、土地改良区、大学および研究機関などの技術者、行政官、研究者等におかれましては、この研究集会に多数参加されますようにご案内申し上げます。

1. 日時

研究集会 令和5年10月19日(木) 13:20~17:00

現地研修会 令和5年10月20日(金) 9:00~14:30(予定)

2. 研究集会

(1) 会場：ねぶたの家ワ・ラッセ イベントホール
(青森市安方1-1-1)

(2) 日時：令和5年10月19日(木) 13:20~17:00

(3) テーマ：「水田の畑地化・汎用化と装置としての水田機能の適応」

①水田の畑地化・汎用化の現状や課題(仮)

農林水産省水資源課 細川 悟

②基調講演 水田の畑地汎用化に求められる地下水水位制御システムと次世代型暗渠排水整備

農研機構農村工学研究部門 若杉晃介

③青森県における農業農村整備(仮)

青森県農林水産部農村整備課 山本貴則

④担い手への農地集積・畑地化が生態系に与える影響(仮) 北里大学獣医学部 森 淳

⑤畑地かんがい技術報告 畑地農業振興会の会員企業の発表

(注) 上記の講演内容は変更の可能性があります。なお、本研究集会は「農業農村工学技術者継続教育機構認定プログラム」に申請中です。

(4) 情報交換会：

令和5年10月19日(木) 18:00~19:30(予定)

ウェディングプラザ アラスカ(青森市新町1-11-22)

3. 現地研修会

令和5年10月20日(金) 9:00~14:30(予定)

青森駅集合・解散

県営ほ場整備事業「福島徳下」地区、水田転換畑(果樹)ほか

4. 参加申込み

後日、本誌(第2報)、畑地整備研究部会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/hatachiseibi/>)、畑地農業振興会ホームページ(<https://www.hataasin.or.jp/>)に詳細を掲載いたします。

5. 宿泊

各自でご対応をお願いいたします。

6. 各種問合せ先

畑地整備研究部会事務局

〒036-8561 青森県弘前市文京町3番地

弘前大学農学生命科学部 遠藤 明

TEL：0172-39-3846

E-mail：hatachi@hirosaki-u.ac.jp

畑地農業振興会

〒105-0012 東京都港区芝大門1-3-11 梶原義範

TEL：03-3438-2581 FAX：03-3438-2583

E-mail：hataasin@muj.biglobe.ne.jp

第 39 回ファジィ システム シンポジウム /FSS2023 の開催

- | | | |
|---------|-----------------------------|---|
| 1. 主 催 | 日本知能情報ファジィ学会 (SOFT) | FSS2023 実行委員会 |
| 共 催 | 国際ファジィシステム学会 (IFSA) | E-mail : fss2023_committee@j-soft.org |
| 後 援 | 農業農村工学会ほか | 5. その他 |
| 2. 開催日 | 2023 年 9 月 5 日 (火) ~7 日 (木) | 詳しくは、第 38 回 ファジィ システム シンポジウム / |
| 3. 会 場 | ヴィラ・デ・マリアージュ軽井澤 | FSS2023 のホームページ (https://soft-cr.org/fss/2023/) を |
| 4. 問合せ先 | | ご覧ください。 |

令和 5 年度農業農村整備サマーセミナー (第 59 回) の開催

- | | | |
|---------|--|---|
| 1. 主 催 | 全国農村振興技術連盟 | 〒 105-0004 東京都港区 5-34-4 農業土木会館内 |
| 後 援 | 農業農村工学会 | 全国農村振興技術連盟 |
| 2. テーマ | 農業農村をめぐる諸課題～食料・農業・農村基
本法の検証を踏まえて～ | TEL : 03-3434-5407 FAX : 03-3578-7176 |
| 3. 日 時 | 2023 年 8 月 9 日 (水) 10 : 30 ~ 16 : 50 | E-mail : kensyu@n-renmei.jp |
| 4. 会 場 | 交通ビル会議室
〒 105-0004 東京都港区新橋 5-15-5
(ハイブリッド開催) | 6. その他 |
| 5. 問合せ先 | | 申込方法等の詳細は、令和 5 年度農業農村整備サマーセ
ミナーのホームページ (https://www.n-renmei.jp/training/
index.html) をご覧ください。 |

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

→電子投稿・査読システムの導入により、平均 4カ月 で審査終了！

→審査終了後、順次 J-STAGE に掲載！

→論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、

冊子体も配布、掲載料も低価格！

→投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に！